

遼寧省観光フォーラム

ERINA特別研究員 三橋郁雄

標記のフォーラムが2005年9月7日より11日にかけて瀋陽で開催された。遼寧省は従来国内有数の工業地帯であったが、現在これらは整理、縮小、変貌の道を辿りつつあり、ここから産み出される膨大な労働者の新しい雇用先確保が急務である。一方、遼寧省には6つの世界文化遺産があり、その他大連のファッションなど世界的に有名な観光産業が勃興しつつある。このように遼寧省には多様な観光資源が存在しており、観光産業の振興により、雇用拡大を図ることが非常に現実的である。ついては、旧態然とした国営企業群も観光の対象と考えることが出来ないかと言う発想の下、世界各地の経験、発想を収集するため今回のフォーラムが開催されたものである。しかし、主催者の思惑は必ずしも国営企業改革支援だけを狙ったものでなく、中国社会科学院の張教授は産業ツーリズムの発想の中国への導入も教えて欲しいと述べている。実際、純粋に国営工業基地の観光産業化を論じた論文は少数であり、その他は中国観光の拡大、発展に向けての課題の分析のレポートが多かった。どのような構成でフォーラムが行われたか、順を追って述べてみる。

フォーラムの冒頭は、瀋陽歌舞団の音楽とダンスと曲技であった。実に素晴らしい演技で、聴衆はすっかり魅了された。場内の視線は舞台に集中し、さすが観光のフォーラムらしい演出と感心させられた。司会は遼寧省旅游局の副局長（Li Xin）で、挨拶は旅游局長（Wu Hongjian）、中国社会科学院部長（Gao Peiyong）、WTO（世界観光機構）のアジア太平洋地域担当責任者（Xu Jing）、WTT（World Travel & Tourism Council）副代表のRichard Miller、中国国家観光局政策部主任（Zhang Jianzhong）が行った。

フォーラムの論文発表は次の通りである。

- 1 . Wu Hongjia (遼寧省旅游局長): 遼寧省の観光事情
- 2 . Xu Jing (WTOアジア太平洋地域代表): 世界ツーリズムの新傾向 - その機会と挑戦
- 3 . Richard Miller (WTT副代表): 大型企業と産業ツーリズム
- 4 . Zhang Guangrui (中国社会科学院観光研究室長): 観光と産業ツーリズムと観光産業
- 5 . Wei Xiaoran : 産業都市の変化と観光発展
- 6 . Wolfgang Arlt (University of Applied Science in Stralsund, Germany): 欧州観光客の目的地としての東北中国 - ドイツの事例
- 7 . Juha Kemppainen (Haaga Institute Polytechnic,

- Finland): 観光人養成システムを有する観光業の発展
8. Ding Peiyi (Australia): 豪州におけるワインツーリズムから学べること
9. Li Kefu (中国): 中国東北地域旧時代工業基地と観光振興
10. 李応珍 (韓国大邱大学教授): 韓国大邱における旧工業基地と地方観光の発展
11. 三橋郁雄 (日本): 日本における地域開発の手法としての観光事業
12. Marion E. Jones (Regina 大学): カナダにおける文化的共同体的発展のための産業ツーリズム
13. Li Xin: 遼寧省工業都市における観光発展ポテンシャル

各人の発表の後、Ying Zhongyuan (遼寧省旅游局副局長) によるまとめが行われた。

三橋の発表は、長野県の小布施の観光地化の過程を述べたものである。古い農業とその関連工業地であった小布施が現在、多くの観光客をとりこにする美しい魅力の町と化した理由は、住民と行政の協力によるものであることを紹介した。

Ding Peiyiはオーストラリアのワイン醸造所が、単なる生産地から、多くの観光客が来訪する地に変化したいきさつ、理由を述べた。醸造所が醸造過程を観光化し、生産物を供するレストラン化し、合わせて周辺の地域を修景することで、地域全体が活性化した。

Marion E. Jonesはカナダの大平原の小さな共同体が人口減少のため滅亡の危機にあったのを、政府の支援で観光地化することによりこれを救ったことが述べられた。

Richard Millerは、中国が今後観光客を国内的にも、国際的にも大量に生み出していくと予測できるとし、この急増状態は世界のどこも経験したことがないほど激しいものであると、中国はそれに十分応えられるよう、ソフト、ハードの両面で必要な整備を急いで進める必要があると述べた。例えば、ホテルにおけるITや、銀行システムの一つであるクレジットカードの利用がまだ非常に遅れているため、観光産業の事務効率が非常に悪いと具体例を提示した。また、需要の急拡大に備えるには、観光産業の民営化が重要であるとし、政府の関与を弱め、民間への委託を多くの部門で増やすべしと主張した。また、中国人の出国が政府規則により厳しく制限されていることに対し、規制の緩和を求めた。中国の国内観光需要の増大に応えるには、安価なホテルの数の拡大が必要であるとし、そのためにはホテルのチェーン化、外資の導入が必要であるとも述べ、

具体的にはAccor GroupとJinjiang Groupが協調しつつあるのは望ましい現象として紹介した。更に、中国では今後meeting、incentives、conference and exhibitions (MICE)の需要が増大していくとし、それに効率的に対処するためNational Convention Bureauが再構成されなければならないと述べた。最後に今後、time shareが普及していくこと、及び空港等インフラの拡張整備が重要であることを述べた。

翌9日には世界文化遺産である瀋陽の故宮とZhaoling Tomb、及び現代史上の歴史遺産である張氏住宅群を視察した。